

在宅での就労を支援します！

- 対象者
- ・障がい者等^(※)で外での仕事に無理のある方
 - ・母子家庭の母等で外での仕事に無理のある方
 - ・その他
- ※「障がい者等」とは、身体・知的・精神、その他適応障がいや発達障がい等があり、外での仕事に無理がある方
- 内容等
- ①インターネット等を活用しての就業
 - ②テレワーク体制での以下の仕事を行う
宛名書き、ノベルティ（品物に社名や商品名を入力）、デザインの作成、データ入力、デジタル採点作業、封入作業、サンプル作成 等々
 - ③就業のためには、パソコンが必要ですが、貸し出しや訓練も行います
 - ④収入・給与等
求人条件等によりますが、出来高制です

☎ 特定非営利活動法人 在宅就労支援事業団
☎096-213-0701

「戦没者遺児による
慰霊友好親善事業」の
参加者を募集しています

この事業は先の大戦で父等を亡くした戦没者の遺児を対象として、戦没した旧戦域を訪れ、慰霊追悼を行うとともに、同地域の住民と友好改善をはかることを目的としています。

実施地域、付添希望者、日程などについては、下記のお問い合わせ先までお願いします。

■参加費：10万円

■平成30年度参加者以外は、複数回の応募が可能です。

※お申し込みは、居住する各都道府県の遺族会までお願いします。

☎ 日本遺族事務局
☎03-3261-5521

京大ウィークス2019
京都大学火山研究センター

阿蘇市坂梨地区にある京都大学火山研究センターでは、昨年に引き続き、見学会（京大ウィークス）を開催します。今回で3回目の開催で、火山について楽しく学べるよう様々な展示をご用意しています。

■日 時：令和元年7月27日（土）
午前10時から午後3時まで

■場 所：京都大学火山研究センター
坂梨研究棟
阿蘇市一の宮町坂梨3028

■参加費：無料

■内 容：研究内容のポスター展示、観測機器の展示及び、デモンストレーション、子ども向け実験や体験コーナーの設置。

10名以上になる場合は、事前にご連絡をください。

☎ 京都大学火山研究センター坂梨研究棟
☎0967-22-5000

令和元年度高森町役場職員異動のお知らせ
(令和元年6月1日付け)

	氏 名	新職名	旧職名
課長級	岩下 徹	T P C 事務局長	T P C 事務局次長
	後藤 一寛	住民福祉課 審議員兼人権同和啓発係長	住民福祉課 課長補佐兼人権同和啓発係長
課長補佐級	今吉 輝子	総務課 課長補佐兼地域振興係長兼総合調整係長	総務課 地域振興係長兼総合調整係長
	津留 大輔	健康推進課 課長補佐兼国民健康保険係長	健康推進課 国民健康保険係長
	緒方 久哉	教育委員会 事務局次長兼学校教育係長	教育委員会事務局 学校教育係長
係長級	眞原 友紀	T P C 事務局 情報管理係長	議会事務局 庶務係長兼監査委員事務局職員
	白石 孝二	税務課 地籍調査係長	教育委員会事務局 社会教育係長兼社会体育係長
	植田 雄亮	教育委員会事務局 社会教育係長兼社会体育係長	T P C 事務局 情報管理係長
係	村山 広樹	政策推進課 政策企画係	農林政策課 農林振興係
	有働 圭	政策推進課 商工観光係	住民福祉課 福祉係
	坂本裕加子	住民福祉課 福祉係	政策推進課 政策企画係
	児玉 海人	住民福祉課 福祉係	政策推進課 商工観光係
	後藤 源喜	健康推進課 国民健康係	T P C 事務局 情報管理係
	篠田江吏子	健康推進課 介護保険係	健康推進課 国民健康係
	矢野有里絵	税務課 税務係	健康推進課 介護保険係
	井芹 英憲	農林政策課 農林振興係	建設課 土木係
	倉岡 沙織	T P C 事務局 情報管理係	税務課 税務係
	衛藤 千佳	議会事務局 庶務係兼監査委員事務局職員	住民福祉課 住民係

令和元年6月から水害・土砂災害の防災情報の
伝え方が変わりました！

市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報が5段階に整理されました。

【避難のタイミングを明確化】			防災気象情報 指定河川洪水予報 土砂災害警戒情報 警報 危険度分布 等
警戒レベル	住民がとるべき行動	行動を促す情報	
警戒 レベル5	命を守る最善の行動	災害発生情報 (出来る範囲で発表)	
警戒 レベル4	避難	・避難勧告 ・避難指示（緊急）	
警戒 レベル3	高齢者等は避難 他の住民は準備	避難準備・高齢者等避難開始	
警戒 レベル2	避難行動の確認	注意報	
警戒 レベル1	心構えを高める	警報級の可能性	



サモアでの活動を終えて

平成29年4月号で掲載した国際協力機構（JICA）のプログラムでサモア独立国に2年間派遣された西山小晴さん（上色見・大村）が帰国され、活動の報告がありました。

私は、JICA海外協力隊の水泳隊員としての活動を終え、4月にサモアから帰国しました。サモアは、海に囲まれた小さな島です。私は主に、子どもたちに水泳を教えていました。みんな元気で可愛いのですが、自由すぎて、言うことを聞いてくれないので、いつも現地の先生に手伝ってもらっていました。現地の人達は、とても親切で、私は本当に人に恵まれていたと思います。活動で疲れた帰り道、「マロ（こんにちは）」と笑顔で挨拶してくれる可愛いサモア人達に、いつも元気をもらっていました。

時間のある時は、水泳以外にも、学校に行って日本文化を教えたり、日本とのスカイプ交流をしたりもしました。色んなことができた2年間は、本当に充実していました。今思えば、やり残したこともたくさんあります。

街を歩くと知らない人でも、「ウソ（兄弟）！」と声をかけてくれたり、毎週美味しいご馳走を家まで届けてくれる友達がいたり、サモアでの生活がすごく恋しいです。サモアはもう私にとって第2の故郷です。

